

## 開拓伝道時代の特別伝道集会 1952～1954

### はじめに

グラント師の仙台における開拓伝道時代、同師は精力的に特別伝道集会（以下特伝）を開催しました。特別な説教者を招き特伝を開催し、話術巧みな説教や感動的な内容の説教で聴衆の心を揺さぶり、心が高揚している中で招きの時が持たれ、その招きに促され信仰の決心の意思表示をする、という形式の特伝方式は30年くらい前まではオーソドックスでした。人の心理や感情に巧みに働きかけ、信仰への決断を促す手法です。しかし、カルト宗教における「マインドコントロール」が社会的に問題となってきた1990年代ごろからは、仙台教会においても特伝における招きの在り方については、心の操作にならないよう十分注意を払うようになりました。ただ、ひと昔ふた昔前の時代から信仰生活を送ってきた者としては、昔ながらの特伝方式に何か郷愁を覚えてしまったりもします。

グラント師が行った特伝は“いずれも大盛況で多くの決心者を生み出し、大きな成果が得られた”、とは残念ながらいきませんでした。福音の種を弛むことなく播き続け、いつかどこかで、何粒かの種から芽が出ますようにと祈りつつの特伝だったのです。1952（昭和27）から1954年（昭和29）の開拓伝道時代に行われた特伝について、資料を辿ってまとめておきます。

### 1. 仙台開拓伝道のキックオフイベント 1952年

1952年（昭和27）11月の特伝は、正に仙台開拓伝道のキックオフイベント的性格を持つものでした。「仙台での開拓伝道スタート 1952（仙台教会の歴史シリーズ・その3）」で若干触れましたが、初期の貴重な資料である「仙台バプテスト伝道所沿革」<sup>1</sup>には、次のように記録されています。「昭和27年 11月7日～11日 グラント師、アスキュー師、長崎牧師、眞鍋氏の四名により初めて市公会堂に於て特別伝道集会を行う」。金曜日～火曜日という少し不自然な日程です。また三日間の特伝だったとしている資料もあります<sup>2</sup>。どちらが正しいかは不明です。「長崎牧師」の名前が載っていることについては、3カ月後（1953年2月）の着任を前に下見と事前準備を兼ねてお招きしたということなのでしょう。「アスキュー師」とは広島で

働いていたカーティス・アスキュー宣教師<sup>3</sup>、「眞鍋氏」は眞鍋長次郎氏<sup>4</sup>で、初期の連盟事務所で主事や視聴覚担当主事の働きを担った方です。

## 2. 連盟の大物牧師を招いて 1953年

1953年（昭和28）は「3月 木村牧師により、5月 大谷牧師により特別伝道集会行わる」と記録されています。フルネームを書かなくとも十分人物を特定できるという書き方ですが、その時代の日本バプテスト連盟内で「木村」と言えば木村文太郎、「大谷」と言えば大谷賢二ということになるのでしょうか。連盟内の大物牧師をお招きしての特伝でした。

## 3. 波状的に特伝実施 1954年

1954年（昭和29）には3回特伝が行われました。1回目は5月9～11日（日～火）の三日間で、在日バプテスト宣教団代表エドウィン・B・ドージャー師<sup>5</sup>が講師です。5月12日（水）の河北新報の夕刊には、「たくみな日本語を用いてユーモアとゼスチュアにとんだ話しぶりには親しみを覚えた」との記者のコメントと共に、話の内容が詳しく掲載されています<sup>6</sup>。

2回目は6月下旬に立石牧師夫妻<sup>7</sup>を迎えて行われ、3回目の特伝は新会堂献堂式が行われた11月7日（日）から12日（金）まで行われました。11月8日（月）の河北新報の朝刊には、献堂式の報告と共にご親切にも特伝の予定が掲載されています<sup>8</sup>。「伝道所沿革」によれば、この特伝について「講師 三善牧師、ギレスビー師、ジャクソン師、眞鍋氏（映画） この頃より教会組織への意識会員間に高まる」と記録されています。「三善牧師」とは三善敏夫牧師<sup>9</sup>のことであり、「ギレスビー師」はアルフレッド・ギレスピー宣教師<sup>10</sup>で、1946～1977年まで日本で働き、大阪教会の設立にかかわった宣教師です。「ジャクソン師」はダブ・ジャクソン宣教師<sup>11</sup>。米国空軍戦闘機部隊に所属、戦後マッカーサーの護衛任務で来日、賀川豊彦や先輩宣教師との出会いを通して献身を決意し帰国後神学校へ通い、卒業後1951年（昭和26）に再来日、旭川教会や東京バプテスト教会設立に貢献した宣教師です。

## 4. 開拓伝道時代の受浸者数

開拓伝道開始から教会組織までの間に、グラント師の下でバプテスマを受けた方

の数をまとめると次の様になります。着任した1952年（昭和27）こそ0名でしたが、1953年（昭和28）はグラント師の7才の次女アンジェラを含め3名、1954年（昭和29）は20名、1955年（昭和30）は3月までに4名となります。そしてバプテスト系の他教会からの転会者6名と、再浸礼<sup>1</sup><sup>2</sup>を受け転会した3名、更にグラント師夫妻と来日前に既に6才で受浸した長女ドナの3名を加えた39名で、1955年3月25日に日本バプテスト仙台基督教会を組織することになります。

（文責：小林孝男）

### 「問題を拾う」

田郡婦人懇談会伊藤さま、おさんらが参加、体験を通じた、母の座の現状、打開方策などについて、討論会から出た問題を拾い、加えてもらいました

母の座の問題を拾う、農村の収益性が低く、労働の価値が正当に評価されると、段階に達して、いなため、一家の主婦の労働が農家経営を動かすという性質のものになっていない限り、母の座が維持されるのだ、従って問題の解決は基本的には農業構造そのものを回顧しなければならぬ、しかしこれはなかなかむずかしいことだから、現段階としては夫とともによく話し合う、農業経営

## 神の福音、母の上に

### ドーシー師の講演

在日バプテスト宣教師代表エドウィン・B・ドーシー師は九月から十一日の三日間にわたって仙台バプテスト教会で特別伝道を行った、師は一九〇八年長崎に生まれ、神戸で中学生生活を終えたのち米国に帰るウエイク・フォレスト大学、南部バプテスト神学校卒業後再び来日、父君O・K・ドーシー師のあとを継いで布教に従って来た、今度六月に帰米するので、その合間をみて東北の伝道旅行をくわだてたわけである、九月は折から「母の日」であったので、師の講話もそれにちなんで、

の起動力になり得る形で、生産に参加することが大切だ

▽生活改善で主婦の地位を高める

伊藤さんの発言により、農村の主婦といふことも最近では生活改善運動などの実施により、自らの時間を産み出し、地位の向上に努力していることが明らかになった、しかしいま農村で支配的な生活改善によって埋み出された時間をもあつてほしい、料理など技術的な問題にあつては片手落ちではないだろうか、このように生活の主婦の努力は農業経営全体を動かす起動力となるためにはむずかしい努力のような気がする、またかまどを作り、台所のよそおいを委ねるだけの生活改善ではなく、物ごとを社会的に考え解決する能力を養いたいものだ

「母の日」は米国で始められてきたが、我々日本に輸入されてから、利用してユーモアとメロディアスな感じがなくなっている、むしろ講演の内容はほとんどつまみ食いのものであった

「母の日」は米国で始められてきたが、我々日本に輸入されてから、利用してユーモアとメロディアスな感じがなくなっている、むしろ講演の内容はほとんどつまみ食いのものであった

### ママが味場



ママが味場、ママが味場、ママが味場、ママが味場

ママが味場、ママが味場、ママが味場、ママが味場

ママが味場、ママが味場、ママが味場、ママが味場

### 飯より多い熱量

#### チコレートの栄養価

子どもは運動が激しい割合に消化器の容積が小さいので「おやじ」は消化品であるところではあるが、よく知られるが薬子は子どもにはよくあつた、成人にとつてもせむせむした品や嗜好品ではなくて、体力回復用の源泉であり、活力源である。菓子には特別のも

成分	含有量
炭水化物	54.3%
蛋白質	4.61%
脂肪	4.30%
繊維質	5.3%
灰分	2.3%

子どもは運動が激しい割合に消化器の容積が小さいので「おやじ」は消化品であるところではあるが、よく知られるが薬子は子どもにはよくあつた、成人にとつてもせむせむした品や嗜好品ではなくて、体力回復用の源泉であり、活力源である。菓子には特別のも

---

<sup>1</sup>1955年3月25日に教会組織を行うにあたり準備した資料であろう。但し、オリジナルの資料ではない。教会組織以降の情報が書き加えられている部分があるからである。

<sup>2</sup>『主の息吹の中で』巻末295~309頁に掲載しているグラント師の説教原稿（2003年7月6日、仙台教会において）には、「新築された公会堂で三日間行った伝道集会」と書かれている。

<sup>3</sup>『主の息吹の中で』26頁、<https://www.legacy.com/us/obituaries/abqjournal/name/curtis-askew-obituary?id=8774982>（閲覧日：2023/1/25）  
Curtis Askewは1947~1972年の間宣教師として日本で働く。2年間の語学研修後、広島教会に着任。1921/12/27生、2017/8/6召天

<sup>4</sup>『日本バプテスト連盟五十年史』552~553頁。特伝では伝道映画の映写技師として働く。

<sup>5</sup>同上9頁

Edwin Burke Dozier、日本バプテスト連盟の設立(1947)や、南部バプテスト連盟外国伝道局の日本での働きで重要な役割を担った人物。1908/4/16生、1969/5/10召天

<sup>6</sup>資料(1954/05/12\_ドージャー師の講演\_河北新報夕刊)

<sup>7</sup>立石牧師に関しては特定できなかった。この時代の牧師としては、旧ホーリネスで特高からの迫害も経験した、新小岩バプテスト教会牧師の立石卯一郎という人物がいるが、「立石牧師」と同一かどうかは不明。

<sup>8</sup>資料(1954/11/08\_献堂式\_河北新報朝刊)

<sup>9</sup>資料(1995/03/26\_献堂四十周年記念誌)5頁、西南学院大学神学部長(当時は、西南学院大学文学部神学科長)。なお、仙台教会元牧師・金子純雄先生が、1947年にバプテスマを受けた際の授浸牧師である。

<sup>10</sup> Alfred Leigh Gillespie

<sup>11</sup> <https://www.baptistpress.com/resource-library/news/william-dub-jackson-missions-pioneer-dies-at-95/>（閲覧日：2023/1/25）

William 'Dub' Henry Jackson Jr.は1951年に宣教師として来日。一般信徒を短期宣教師として派遣し伝道するいわゆるパートナーシップ・ミッションの指導的立場にあった。1924/4/23生、2020/1/19召天

<sup>12</sup> 旧メソジストと旧日本基督教会からの転会者3名は再浸礼を受け、またバプテスト系の教会(福岡教会、常盤台教会、逗子教会、尚綱教会、八戸教会、塩釜教会)からの転会者6名はそのまま転入した。